

公益財団法人平野政吉美術財団
令和4年度 事業実施計画

- I 展示公開事業**
- II 教育普及事業**
- III 調査研究事業**
- IV 美術ホール運営事業**
- V 売店事業**

令和4年4月1日～令和5年3月31日

<基本方針>

1930年代の藤田嗣治の油彩画を中心とした平野政吉コレクションの展示や美術品に関する調査・研究等をふまえ、県民をはじめ広く世界に当財団の基本財産の意義を発信する。

<重点事業>

- ・基本財産調査の研究の成果を、展示公開事業である常設展、企画展、特別展に生かす。
- ・企画展は、平野政吉コレクションの藤田嗣治作品と、コレクションの中から「藤田のパリへの想い」をテーマにした作品を紹介する企画展「藤田嗣治 パリへの郷愁」展、藤田が愛蔵した品々やそれらに関する作品を展覧する企画展「藤田嗣治が愛したものたち」を開催する。
- ・特別展としては、大正・昭和期に活躍した版画家・川瀬巴水の作品を展覧する「川瀬巴水展」、生物の骨格に鮮やかな色彩を施した透明標本を展示する「富田伊織 新世界「透明標本」展」、ポーラ美術館の全面的な協力のもと開催する「藤田嗣治 子どもへのまなざし展」、岸田劉生の油彩画・装丁画・水彩画を中心に展示する「岸田劉生展」を開催する。
- ・教育普及事業としては、専門的美術講座、講演会、美術館教室やワークショップ、ギャラリートーク、コンサート、出前授業等のイベントを実施し、県民に親しまれる美術館を目指す。
- ・壁画《秋田の行事》については、月一回の定例ギャラリートークを実施する。平野政吉と藤田嗣治の交流、および壁画のテーマとなった「秋田」について理解を深めることができるような解説を行う。
- ・学校と連携し、美術館における幼児、児童、生徒、大学生の学習の充実に務める。
- ・セカンドスクールについては、学年に応じた解説を行い、ワークシートを活用し、作品に向き合う姿勢を涵養する。
- ・セルフガイドの作成、わかりやすい解説など、よりよい鑑賞の実現に取り組む。
- ・展示作品について研修し、他の美術館と交流し、美術館スタッフの資質向上に努める。

<貸しホール事業>

- ・県民の創作活動発表の場である美術ホール（県民ギャラリー）は、ホールの特性を生かした利用促進を図る。特別展「富田伊織 新世界「透明標本」展」では、県民ギャラリーを使用し大規模な展覧を実現する。

I 展示公開事業

<1> 常設展示事業

平野政吉コレクションの核である藤田嗣治作品を展覧し、1930年代の藤田の画業を紹介する。

常設展 平野政吉コレクション展Ⅰ

1 会 期 令和4年4月16日(土)～7月3日(日)

※休館日：5月25日(水)

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

平野政吉コレクションから、藤田嗣治の版画作品を中心に紹介する。

4 主な展示作品

藤田嗣治『魅せられたる河』、『四十雀』など

常設展 平野政吉コレクション展Ⅱ

1 会 期 令和4年9月3日(土)～11月6日(日)

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

平野政吉コレクションから、藤田嗣治が子どもへの想いを込めて描いた作品を展覧する。

4 主な展示作品

藤田嗣治《秋田おばこ》、《雪國の少女》、『四十雀』など

常設展 平野政吉コレクション展Ⅲ

1 会 期 令和4年11月13日(日)～令和5年1月22日(日)

休館日 令和4年12月31日(土)～令和5年1月2日(月)

2 会 場 大壁画ギャラリー

3 趣旨

平野政吉コレクションから、藤田嗣治が描いた妻・マドレーヌをモデルとした油彩画を展示。
あわせて藤田の水彩画を紹介する。

4 主な展示作品

藤田嗣治《眠れる女》、《五人女》、《狐》、《猫》、など

<2> 企画展示事業

平野政吉美術財団所蔵作品、および秋田県立近代美術館所蔵作品、県内の研究者の協力を組み合わせた展覧会を開催する。

企画展 藤田嗣治 パリへの郷愁

1 会 期 令和4年7月9日(土)～8月28日(日)

2 会 場 大壁画ギャラリー、ギャラリー1・2

3 趣旨

藤田嗣治は、フランス人女性のマドレーヌ・ルクーとともに1933年11月に日本へ帰国した。ふたりは、東京戸塚(現在の新宿区高田馬場)に構えたアトリエに暮らす。1936年6月、マドレーヌが急死する。マドレーヌはモデルとして藤田作品にたびたび登場し、死後もその面影はパリの風景とともに描かれた。

本展では、藤田がマドレーヌをモデルにした油彩画、パリの風景を描いた作品を中心に展覧。
異国で亡くなった妻への鎮魂とパリへの郷愁が重なり合った藤田の想いを紹介する。

4 主な展示作品

藤田嗣治《1900年》、《踊子》、『魅せられたる河』より《オペラ座の夢》など

企画展 藤田嗣治が愛したものたち

- 1会期 令和5年1月28日(土)～4月16日(日)(予定)
休館日 令和5年3月13日(月)～3月22日(水)
- 2会場 大壁画ギャラリー、ギャラリー1・2

3趣旨

藤田嗣治《吾が画室》には、藤田が愛蔵した中南米での収集品、道具、布、作品などが描かれている。藤田は生涯、様々なものを収集し自らの手元に置いた。本展では、藤田が心を寄せ愛したものをモチーフとした作品、平野政吉に譲渡された品である中南米の収集品などを中心に展観する。

4主な展示作品

藤田嗣治《自画像》、《吾が画室》、《私の画室》、《マドレーヌ像(羽子板型)》、中南米の収集品など

<3>特別展示事業

美術の動向や時代の状況を踏まえてテーマを設定し、他館からの借用作品を中心に構成した展覧会を開催する。

特別展 川瀬巴水 旅と郷愁の風景

- 1会期 令和4年4月16日(土)～7月3日(日)
休館日 5月25日(水)
- 2会場 ギャラリー1・2

3趣旨

大正・昭和期に活躍した版画家・川瀬巴水(1883～1957)。日本全国を旅して、四季折々の風景を叙情的に描いた巴水は、「新版画」を牽引する存在として、「旅情詩人」「昭和の広重」とも呼ばれ人気を博している。江戸時代に誕生した浮世絵は、明治に入り衰退していくが、版元である渡邊庄三郎が伝統的な木版技術の復興と普及を目指し、新しい時代の浮世絵版画「新版画」を提唱する。巴水は渡邊とともに、新時代の意匠を凝らした画風や新たな手法に挑戦し「新版画」を確立させた。

本展は、川瀬巴水の画家としての生涯を、初期から晩年にかけて制作した代表的な作品とともに、まとめて見る機会の少ないシリーズ(連作)を中心に紹介する。日本の風景やそこに暮らす人々の生活を描いた巴水の世界をご覧いただく。

4主な展示作品

川瀬巴水《芝増上寺》、《馬込の月》、《平泉金色堂》、《日本橋(夜明)》、《田澤湖御座の石》、《上野清水堂》など

特別展 富田伊織 新世界「透明標本」展

- 1会期 令和4年7月9日(土)～8月28日(日)
- 2会場 県民ギャラリー

3趣旨

は虫類や魚類など生物の骨格に鮮やかな色彩が施された「透明標本」は、従来の標本のイメージからはかけ離れている。

その美しさは、生物でありながらまるで鉱物で形作られたかのようなようである。

アートやサイエンスへの興味を深める入り口として、「命」がより身近に感じられる造形作品として、幅広い世代に楽しんでいただける展示である。

4主な展示作品

富田伊織《New World Transparent Specimens》

特別展 藤田嗣治 子どもへのまなざし展

1会 期 令和4年9月3日（土）～11月6日（日）

2会 場 ギャラリー1・2

3趣旨

藤田嗣治は生涯、子どもを愛情込めて描き続けた。中南米を経て日本に帰国した1930年代、壁画《秋田の行事》においても、表情豊かな子どもたちを四季折々の場面に登場させている。戦後、1950年にフランスに戻った藤田は、街の一隅や室内に集う子どもの群像を描く。また、妻と暮らすパリの住居には、子どもを描いたボード画を壁いっぱい、タイルのように飾り付けていた。最晩年には、「私には小供がない。私の画の小供が、私の息子なり娘なり一番愛したい小供だ」（藤田嗣治直話）と語っている。

本展では、ポーラ美術館の全面的な協力のもと、秋田初公開となる1950年代の子どもを描いた油彩画や、生活空間を彩ったボード画・『小さな職人たち』を中心に、藤田の子どもへのまなざしを紹介する。

4主な展示作品

藤田嗣治《つばめと少女》、《誕生日》

藤田嗣治『小さな職人たち』より《石炭運び》、《仕立屋》、《椅子職人》

藤田嗣治『小さな職人と商人』より《焼き栗売り》、《ガラス売り》など

特別展 画家 岸田劉生の軌跡展—油彩画・装丁画・水彩画などを中心に—

1会 期 令和4年11月13日（日）～令和5年1月22日（日）

休館日 令和4年12月31日（土）～令和5年1月2日（月）

2会 場 ギャラリー1・2

3趣旨

岸田劉生は、日本近代洋画を代表する画家のひとり。岸田は白馬会の洋画研究所で黒田清輝に師事する。また、文芸雑誌『白樺』で後期印象派の作品と出会い、セザンヌやゴッホらの影響を受けた作品を描いた。娘・麗子が生まれてからは、愛情を込め数多くの麗子像を描いた。この頃から、精緻な写実を追求し物や人物の存在を深く見つめる「内なる美」の探究へと進む。その後、中国の宋元画や南画、浮世絵など東洋的な美に惹かれ、それを自らの芸術にも反映させようとする。取り組んだ。

本展では、笠間日動美術館のコレクションを中心に、油彩画、水彩画、墨画、素描、装丁画などを展覧する。38年という短い生涯において、多彩な芸術表現を展開した画家・岸田劉生の軌跡を、その作品から辿る。

4主な展示作品

岸田劉生《麗子之像》、《麗子像》、《麗子十六歳之像》、《自画像》、《静物（林檎と葡萄）》、《村娘之図》、《猫図》など

II 教育普及事業

美術館に親しみ、美術への理解を深めてもらうため、さまざまな年齢層、多様な立場の方を対象にした講演会、美術館教室、ワークショップ、ギャラリートークなどを実施する。

（1） 専門的美術講座

事業名 専門的美術講座「館長講話 子ども絵について 小児のための美術教育」

講師 渋谷重弘（秋田県立美術館 館長）

実施日 未定

対象 一般

会場 レクチャールーム

(2) 講演会

事業名 「展覧会監修者による特別講演」(川瀬巴水展)
講師 岩切信一郎(展覧会監修者・美術史家)
実施日 令和4年4月24日(日)
対象 一般
会場 県民ギャラリー

事業名 「特別展 藤田嗣治展」関連講演会
講師 内呂博之(ポーラ美術館学芸員)
実施日 令和4年9月中旬(予定)
対象 一般
会場 レクチャールーム(予定)

事業名 「岸田劉生展」関連講演会
講師 長谷川徳七(株式会社日動画廊代表取締役社長)
実施日 令和4年11月(予定)
対象 一般
会場 レクチャールーム(予定)

(3) 美術館教室

事業名 美術館教室「手話で作品解説」
講師 学芸員、手話通訳者
実施日 未定
対象 一般
会場 大壁画ギャラリー(予定)

事業名 美術館教室「館長によるデッサン講座」
講師 渋谷重弘(秋田県立美術館 館長)
実施日 未定
対象 一般
会場 レクチャールーム(予定)

(4) ワークショップ

事業名 ワークショップ「装飾タイルをつくろう(仮)」
実施日 10月中旬(予定)
講師 未定
対象 一般
会場 レクチャールーム

事業名 ワークショップ「装丁本をつくろう(仮)」
実施日 12月中旬(予定)
講師 未定
対象 一般
会場 レクチャールーム

事業名 ワークショップ「はりがね動物人形をつくろう(仮)」
実施日 未定
講師 学芸員
対象 一般

会場 レクチャールーム

(5) ギャラリートーク

特別展 「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」
実施日 令和4年5月14日(土)、6月18日(土)
講師 学芸員
会場 ギャラリー1・2

企画展 「藤田嗣治 パリへの郷愁」
実施日 令和4年7月、8月
講師 学芸員
会場 大壁画ギャラリー、ギャラリー1・2

特別展 「藤田嗣治 子どもへのまなざし展」
実施日 令和4年9月、10月
講師 学芸員
会場 ギャラリー1・2

特別展 「画家 岸田劉生の軌跡展—油彩画・装丁画・水彩画などを中心に—」
実施日 令和4年11月、12月
講師 学芸員
会場 ギャラリー1・2

企画展 「藤田嗣治が愛したのものたち」
実施日 令和5年2月、3月
講師 学芸員
会場 大壁画ギャラリー、ギャラリー1・2

学芸員による《秋田の行事》トーク

実施日 毎月第1土曜日、竿燈期間中—令和4年8月3日(水)、8月4日(木)、8月5日(金)、
8月6日(土)
講師 学芸員
会場 大壁画ギャラリー

(6) ミュージアムコンサート

事業名 「聖霊高校ハンドベル部によるコンサート(仮)」
出演者 聖霊高校ハンドベル部
実施日 令和4年12月下旬(予定)
会場 エントランス(予定)

(7) エリアなかいち関連イベント

事業名 「《秋田の行事》なぞなぞ(仮)」
実施日 令和5年2月(予定)
講師 学芸員
会場 にぎわい交流館AU

(8) 出前講座

事業名 「壁画《秋田の行事》からのメッセージ」
実施日 未定

講師 学芸員
実施校 未定

Ⅲ調査研究事業

《秋田の行事》をはじめとする平野政吉コレクション、および藤田嗣治の作品を調査研究し、その成果を公表する。

Ⅳ美術ホール（県民ギャラリー）運営事業

事業内容

- 1 絵画、デザイン、彫刻、書道、写真、児童・生徒作品等、美術ホール（県民ギャラリー）で展示する個人および団体の利用受付業務、展示指導を行う。
- 2 特別展「富田伊織 新世界「透明標本」展」では、美術ホール（県民ギャラリー）を展覧会会場として機能させる。
- 3 美術ホール（県民ギャラリー）と2階・3階の展示室あわせての鑑賞を促進する。

Ⅴ売店事業

藤田作品の理解を深めるため、インターネットでの《秋田の行事》の額絵販売を行う。秋田県立美術館ミュージアムショップ運営業者へ絵はがき等の販売を委託する。